

HOME TOWN MEMURO

ふるさと通信



バドミントン女子ダブルス
東京オリンピック2020出場

永原 和可那選手

ふるさと納税

ふるさと会インタビュー

芽室町でワーケーション
まち丸ごと野マド・シティ

岐阜県揖斐川町
友好都市交流15周年

NO.43

感動をありがとう、永原選手

東京オリンピック2020大会

今から3か月前、日本が熱気と感動に包まれた東京オリンピック2020大会に、芽室町出身の永原和可那選手がバドミントン女子ダブルス日本代表として出場し、ベスト8に入りました。決勝トーナメントまで駒を進めましたが、準決勝で惜しくも敗退してしまいました。しかし、間違いなく私たちに感動と元気を与えてくれました。

8月13日（金）芽室町総合体育館にて、帰町報告会＆バドミントンクリニックが開催され、小中学生の選手や町民など約130人が参加しました。報告会での対談では、ゲストとして2010年の冬季オリンピックでスピードスケート日本代表の土井慎悟（どい しんご）さんにも登壇いただき、オリンピックの雰囲気や様子など臨場感あふれるアスリートトークで盛り上がりました。小中学生からはたくさんの質問が寄せられ、オリンピックの言葉に皆真剣に聞き入っていました。



左から、FMJAGAのMC栗山昌宏さん、手島町長、永原選手、土井慎悟さん



小中学生へ指導する永原選手

コロナ禍で集まることができない今、応援の気持ちを届けようとワカナ企画を実施しました。

●ゴールドラッシュ企画

とうもろこし（ゴールドラッシュ）を東京オリンピック2020にちなんで、町民へ2020本無料配布しました。ゴールドラッシュを食べながら、ナガマツペアの応援を呼びかけました

●ハッシュタグ企画#がんばれワカナ

芽室町公式Instagramにて永原選手の恩師や親友からのメッセージを投稿。さらには、#がんばれワカナをつけた応援も多数投稿されました。

●応援うちわ&ポスター

応援うちわは、町内の小・中・高校生、幼稚園保育所の児童のみなさん全員に配布し、また、公共施設等でも配布を行い、多くの町民の皆様の手に渡りました。ポスターは商店街や公共施設などで掲示いただきました。



応援ポスター



応援うちわ

「叶えたい夢を
一つ持つこと
夢を持つことで
目標が明確になる」

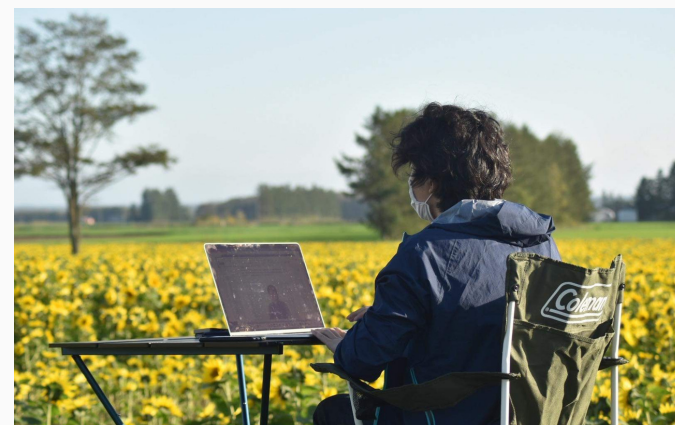
永原 和可那



※イベント等は、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで開催されました。

まち丸ごと野マドシティ

ノマド（nomado）とは、英語で「遊牧民」を意味し、様々な場所で仕事をする新しいライフスタイルが定着しています。これに芽室町の魅力の1つである「野」を掛け合わせてできた造語が「野マド」です。



10月14日（木）～16日（土）の3日間芽室町を舞台とした野マドワーケーション体験プログラムを開催しました。都市圏を中心とした企業や行政の方約20名の方に来町いただき、「野マド」を体験していただきました。15日には新嵐山スカイパークでワーク

ショップ「野マドサミット」を開催。町内農業者も参加し、芽室町を働く場、住む場としてとらえた場合の魅力や課題について、意見を交わしました。まさに「人と人がつながり」、「そこから生まれるまちの課題解決と可能性の最大化提案」を体感できた3日間でした。

第2弾 11月25日～26日
TO BE CONTINUED

おしえてあなたのふるさと会



自分の所属しているふるさと会以外の会員さんとは交流が少ない
ほかのふるさと会がどんな活動をしているのかわからない・・・
そんな方の為に、今月から各ふるさと会をご紹介
懐かしい芽室町でのエピソードも盛りだくさん

東京芽室会 創立62年6月

昭和62年、芽室町出身大関大乃国の夏場所優勝がきっかけとなり、全町的組織芽室会に拡大するため既存の”東京美生会”が母体となり「東京芽室会」が設立されました。設立当初の会員数は約360名。
東京芽室会設立の会が昭和62年6月21日、東京・千代田区霞が関ビルで開催され、ふるさと会として正式に発足しました。会員は東京のみならず、神奈川、千葉、埼玉と分布されています。
現在の会員数は111名。年1度の総会や、秋の交流会などの活動を行っています。

ふるさと会の生の声を聴いてみた！

東京芽室会 会長
榮前田 勝良 氏
平成元年入会
上美生出身
昭和18年6月6日生

芽室町での思い出

芽室高校時代、冬になると交通の便も悪く、上美生地区の高校生は芽室の街中で下宿生活、またはアパートで自炊生活をして学校へ通いました。同じ町内なのに。
私は知り合いの家で下宿生活、週末には実家に帰っていました。高校には寮もありました。今のように雪の日も除雪は進んでいませんでした。芽室町は広いのです。

日高山脈の四季

上美生生まれの、上美生育ちですから日高山脈の四季を眺めて過ごしました。東京に出てきてからは四季折々とはいきませんが、帰ると山を見てホッとします。
特に十勝幌尻岳、剣山、芽室岳。春先の新緑と雪山が一緒の絵は素晴らしいの一言。

ふるさと会のこれから

北海道内80を超す「ふるさと会」がありますが、どこも悩んでいるのが若い会員の減少です。

時代は「ふるさと会」を必要としなくなってきました。
通信手段の進歩、顔を見ながら話せるスマホ、メールで伝えることもできる。物流（宅配便）が進んで故郷の食べ物が通販で届く。飛行機で1時間半あれば、東京から帯広につきます。
故郷が遠い場所ではなくなった今、ふるさと会はあと10年位で消滅かと思うことがあります。
そのくらい高齢者と若者の間の意識の溝は深いのです。

札幌芽室ふる里会 創立62年6月

札幌市に在住する芽室町出身者で組織する札幌芽室会が昭和62年6月9日、中央区KKR札幌で発会式を開く
会員は札幌で活躍中の企業・団体の幹部クラス27名。過去には300名ほどの会員がいたことも。
現在も会員数約180名というめむろふるさと会最大の規模を誇る。

ふるさとを想うきもち・・・

ここが原点

高校生直前、1968年春、行李に一杯の荷物をつめたチツキを預け、芽室駅から大きな不安を胸に夜行列車に。
ふる里を離れふる里を思う原点、それが芽室駅です。



あの頃の味 あの時のお湯

昔、池田屋さんという食堂がありました。
みなさんはご存知でしょうか？
そこでラーメンをいただくのが、小学生の頃の最高の贅沢でした。

今は閉じてしまった川北温泉、幼い頃はよく家族で訪れました。
また、あのお湯につかりたいものです。

故郷の思い出

小学生の時、ひとみちゃんという女の子と相撲をとって負けた。
夏休み、まだ幼稚園児だった康さん（のちの大乃国）のお父さん（ヨシちゃん）が朝のラジオ体操のカードにまとめてハンコを押してくれて、いい人だなと思った。（こちらは子どもなのに、周りの大人と同じく、ヨシちゃんと呼んでいました）

中学生の時、芽室中学校の体育館で行われた卓球大会、床がつるつるで何度も転倒しました。芽室以外は「山の学校」といわれ、さすが「町の学校」の体育館は違うと痛く関心。

芽室中学校のかわいい女子生徒が、すべらないように、水を含ませた雑巾を用意してくれた大感激！そして準優勝！

毎月町が発行している広報誌「すまいる」では、9月号から小・中学校沿革シリーズが記事になっています。皆様になじみの深い記事もあるかと思しますので、ぜひご一読ください。
毎月購読することも可能ですので、興味のある方はご連絡ください。また、町のホームページからも閲覧可能です。

札幌芽室ふる里会 会長
松久 三四彦 氏
平成21年入会
美生出身
昭和27年6月26日生

主な活動

- 総会（毎年4月開催）
※コロナ禍により2年連続中止となっています。
- 会報「東京スマイル」
年2回発行
- 秋の交流会（毎年10月）



令和2年10月秋の交流会

主な活動

- 総会（隔年開催）
※令和3年度については書面開催



札幌芽室ふる里会 総会・懇親会

友好都市提携 15周年 IBIGAWA × MEMURO



職員相互派遣

揖斐川町と芽室町では、以前から職員の相互派遣交流が行われていました。一昨年からリスタートし、今年で3年目となります。相互の人事交流により、どんどん関係人口が増え、今後さらに両町の交流が加速していくことが期待されます。

特産品販売

町内で開かれたイベント「ちいさな森のマルシェ」にて、岐阜コーラや五平餅といった揖斐川町の特産品を販売しました。北海道にはあまりなじみのない五平餅や薬草茶が大人気。揖斐川町の文化、食に触れてもらい、揖斐川町と芽室町が友好都市であるということを多くの人に知ってもらいよい機会となりました。今後は芽室町で揖斐川町の特産品が買えるストアの常設化を目指します！

オンライン交流会

芽室・揖斐川、両町の役場職員が各自のPCやスマホを使用し、オンライン上で顔を合わせての交流を実施しました。人の交流はもちろん、事前に両町の特産品をお取り寄せし、食の交流を実現！画面越しではありますが、文化の違いや気候の違いなど、大盛り上がり！両町の魅力を再認識する場となりました。まさに、今だからこそできる交流の仕方に、新たな可能性を感じました。

海を越えて繋がる。

岐阜県揖斐川町と北海道芽室町が友好都市提携を結んでいること、ご存知でしたか？約1,000 kmも離れた町同士がなぜ友好都市提携を結んだのか？そのつながりは、古く北海道開拓の時代にさかのぼります。十勝には、岐阜県から多くの方が、入植されました。平成12年に「岐阜県人会」が設立され、交流をより推進するために平成18年5月27日友好都市提携を結びました。揖斐川町は、十勝の大地を拓いた、私たちの祖先のふるさとのひとつなのです。その繋がりが、今さらなる繋がりを生み出そうとしています。



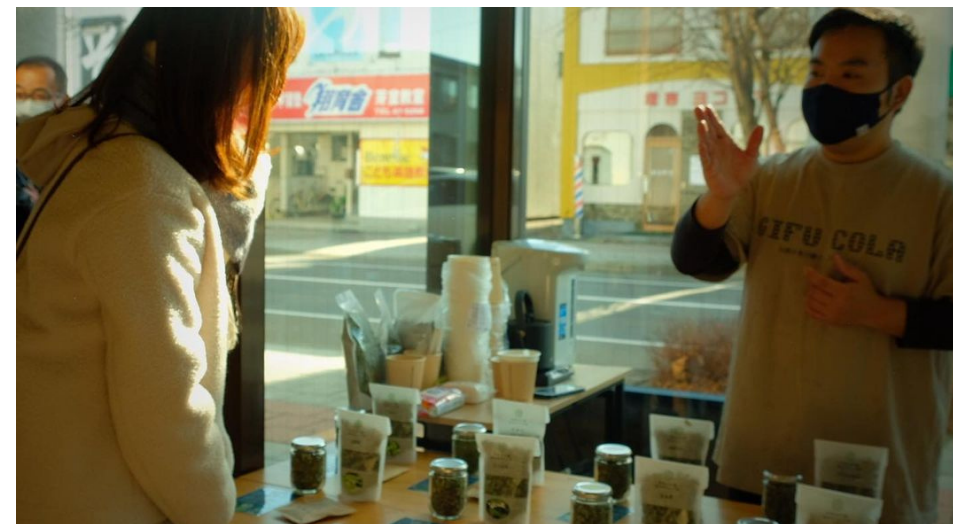
@揖斐川町地域おこし協力隊 泉野かおりさん

新たな交流の実現

：揖斐川オーガニックスタンド

11月20日（土）芽室町内にあるtou/tell（トウテル）というオーガニックストアで、岐阜県揖斐川町のぎふコーラ・薬草茶・三年番茶を販売するドリンクスタンドが実現しました。揖斐川町より、*ぎふコーラと*キッチンマルコのメンバーも駆けつけ、直接芽室町民に商品や活動について、アピールしました。普段なかなか触れることがない揖斐川町の文化に触れ、tou/tellさんに訪れた方からは「こんなに素敵な文化があることを知らなかった」「揖斐川町に行ってみたくなった」といった声が寄せられました。両町の友好都市間の交流が行政から民間、そして町民の方への広がりを感じることができました。

*ぎふコーラ・・・1991年岐阜県生まれの3人がゼロから作り出す新感覚ドリンク。岐阜の宝・文化・特産を煮詰め込んだクラフトコーラ
*キッチンマルコ・・・岐阜県揖斐川町にあるカフェ〜五感で楽しむ伊吹薬草〜をコンセプトに、伊吹山麓エリアで採れた薬草（和ハーブ）やお野菜を使った身体にやさしいお料理や飲み物がいただけます。



@キッチンマルコ店長 四井智教さん

ぎふコーラを 通じて地域文化を 継承したい

岐阜県では、古来より薬草を煎じて飲むことで自分たちの健康を守ってきた文化があり、各家庭でブレンドした“百草茶”として普段から飲まれていました。しかし、現代では日常生活で口にすることは減り、山へ入ることも少なく、薬草文化に触れる機会はほとんどなくなりました。「薬草を再び身近なものにしていきたい」その想いからぎふコーラのプロジェクトが始まったわけです。一揖斐川コーラではなく、ぎふコーラにしたわけーぎふコーラを介して、ぎふ全体を1つにしていきたいと考える私たち。初回は西濃エリアに注目して、伊吹山の薬草クラフトコーラを製造しました。岐阜といっても大きく5つにわけられ、飛騨・中濃・東濃・岐阜・西濃と各地で特徴が異なります。それぞれのエリアとコラボして作っていくことで、大きな【ぎふコーラ】へと成長していきたいと考えています。



薬草を摘む

薬草茶がお客様の手元に届くまでには長い期間がかかっています。薬草の収穫、乾燥などはすべて手作業で行います。薬草のある山間までは片道40分もかかります。丁寧な作業により完成する薬草茶は多くの町民に愛され、地域外からのリピーターも多数いらっしゃいます。今回のオーガニックスタンドでは、その薬草の収穫を体験してもらえるよう、自分で薬草をブレンドするオリジナル百草茶づくりを考案しました。薬草を摘むという文化がない北海道ではとても新鮮で、お子様から大人まで楽しんでいただくことができました。

揖斐川 ってこん有とろ GIFU IBIGAWA

岐阜県揖斐郡揖斐川町はもともと1町5村だったものが平成17年に合併して今の“揖斐川町”となりました。豊かな自然と美しい川など自然豊かでお米やお茶、山菜の産地として名高く、最近では薬草で創るクラフトコーラ「ぎふコーラ」も人気を誇ります。日本のほぼど真ん中に位置しており面積は803.4km²(県内4番目)そのうち91.1%が森林人口20,054人(R3.11現在)

HISTORY



谷汲山華厳寺

創立は平安初期の798年。願いが叶う「満願霊場」として愛される名刹です。1300年以上の歴史を誇る「西国三十三所観音巡礼」が日本遺産登録されました。華厳時はその最終の三十三番目のお寺です。参道の桜や、紅葉の美しさも格別。

SOUVENIR



さざれ石

岐阜県の天然記念物に指定され、国家「君が代」の発祥の地ともいわれています。この石が天与の自然石であり、日本を象徴する存在として国歌に詠まれています。揖斐川町から芽室町へ贈呈いただいたさざれ石は現在、町長室に飾られています。

LEGEND



夜叉ヶ池

標高約1100mの山頂にある、古来より枯れたことがなく、そのメカニズムも解明されていないと伝えられている神秘的な池「夜叉ヶ池(やしやがけいけ)」。

雨乞いの願いを叶えた龍が、長者の娘・夜叉姫を妻として連れ去り、姫自身も龍になってしまったという「夜叉ヶ池伝説」が残ることで名高いです。

ふるさと会の皆さま、こんにちは！

今年度より岐阜県揖斐川町から芽室町へ派遣となっています、高田ありさです。

岐阜県揖斐川町生まれ揖斐川町育ち、一度大学進学で町外へ出ましたが、故郷への想いから揖斐川町へ戻ってきました。

北海道に来てからは、周りの景色文化、食べ物のおいしさ、揖斐川町との違いに驚く毎日を送っています。揖斐川町は川がきれいでお米や日本酒の産地として知られています。こちらにはない田園風景が広がり、見慣れたなんてことない風景も揖斐川町の財産なのだと気が付きました。素敵なところがいっぱいので揖斐川町へぜひお越しください！

／揖斐川の魅力発信中／



あなたの“想い”をふるさとへと
とどけませんか？

生まれ育った「ふるさと」の力になりたい

自分とかかわりの深い地域を応援したい

そんなあなたの想いがまちづくりへとつながる。

ご寄附いただいた方へ芽室町の特産品をお届けします。

暖かいご支援お待ちしております。

FURUSATO



ふるさと納税

「自分を育ててくれた”ふるさと”に自分の意思で
いくらかでも納税できる制度があってもよいのではないか」
そんな問題提起から始まったふるさと納税制度
芽室町では、いただいた寄附へ感謝の気持ちを込めて特産品を
お送りしています。農業王国ならではの旬の農産物や新しい芽室
町の味覚をお楽しみください。



新たな特産品もぞくぞく登場!!

NEW
めむろピーナッツ
Tシャツ・マスク



NEW
めむろワイナリー
醸造ワイン



小久保の
ブンギスカン



収穫量日本
とうもろこし



魅力創造課
0155-62-9736
へお問合せください!

芽室町 ふるさと納税



編集後記

東京と札幌の2つのふるさと会について、インタビューさせていただきました。昔の芽室町について伺うのはやっぱり面白い。勉強になります。そういえば、わたしも幼い頃、地域で開かれた相撲大会に出場したことあったなあ・思い出しました。懐かしい。小学校のグラウンドには土俵もありました。今の子どもたちはやってないのかな・

真田



芽室町役場魅力創造課魅力創造係TEL:0155-62-9736/FAX:0155-62-4599